

さぬき市の文化財 72

今回は、文化財保護協会津田支部の方から津田町にある北峰神社について紹介していただきます。

北峰神社は、津田町津田平畑（北山）の山中に鎮座している神様で、御祭神は金山彦命です。また現存する石柱には「峰寺大権現」と刻まれ、北峰権現とも上野権現ともいいます。鳥居には元禄2年（1689）の銘がありこの年には今の場所に神社が建てていたことが分かります。

伝承としては、弘仁年間（810～824）空海または弟子の真済が北山の上に一字を建立して峰寺といったことや、織豊時代の天正年間（1573～1592）に長宗我部軍の兵火で峰寺が焼失したが、当神社は難を逃れた、といわれています。

志度町史には、鴨部馬次の長福寺はもともと北山の山上にありましたが、天長元年（824）空海が現在地に移転して長福寺と名付けたと書かれています。



北峰神社

また、地元の古老達の話によれば神社の近くに役行者の修行場らしきものがあるとか、また神社祭神も那智勝浦の熊野大社から御主神（天須美神）の分祀を頂き、今に至っていると伝えられています。近年、神社拝殿前から宋銭（熙寧元宝）と寛永通宝が各1枚見つかりました。神社本殿横（南）には石仏や石祠があります。大川広域行政組合の松田先生によれば石祠は豊島石で1600年ごろに造られ、石幢は南北朝時代に造られ、それには僧「賢海」と銘があるそうです。今後の詳しい調査をお願いしたい所です。



北峰神社の石仏

北峰神社は、石幢や宋銭があることからみて、室町初期にはお社やお堂が、出来ていたかも知れません。今から約300年前、日向より日向松を漁師が取り寄せて植えたそうです（松喰虫で枯れ、旧津田役場の接客用テーブルとなり、現在も津田支所の応接室で使用されています）。そう考えると、それぞれの時代毎に、多くの参拝者がいて、農林・水産・漁業で各地との交流があったことが考えられます。また最近まで地元の人の遊び場だったり、お祭りで子供達は奴姿で毛槍や狭人箱を担いだり、素人相撲大会もありにぎわっていました。



北峰神社のラントウ（左側）、祠（右側）